

フルハーネス型墜落制止用器具 取扱説明書

要保存 必ずお読みください。

この度は、フルハーネス型墜落制止用器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この製品は、建設現場、工事等の高所作業で、作業者の墜落を制止するために使用するもので、厚生労働省の「墜落制止用器具の規格」に合わせて製造したフルハーネス型墜落制止用器具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に **▲危険**・**▲警告**・**▲注意**の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保管していただき、紛失された場合には当社もしくはサンコー株式会社にご請求ください。

※安全ブロック・親綱・ロープチャック・S-スライド等を併用される場合はそれらの製品に添付されている取扱説明書も合わせてお読みください。

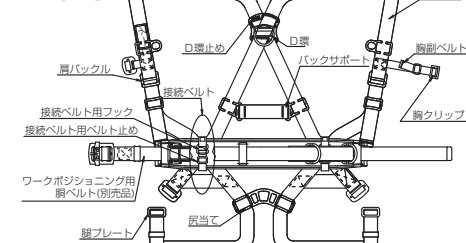
1 製品の説明

このハーネスは、ワークポジショニング用器具を組み合わせ使用できる製品です。ワークポジショニング用器具のお取扱い・廃棄基準にあたっては付属の取扱説明書を参照してください。

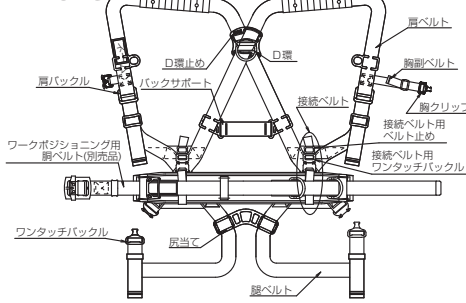
2 各部の名称

※ワークポジショニング用器具は別売品です。

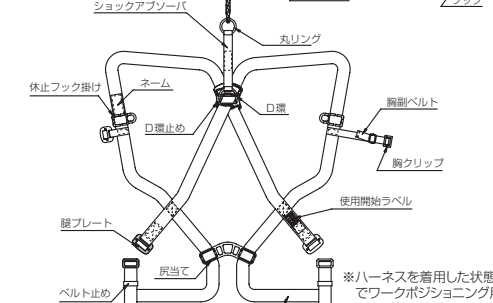
DB-HN-15DS



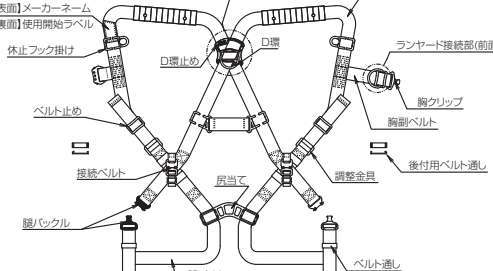
DB-HN-20DS



DB-HN-05DS



DB-HN-20DS-BKF



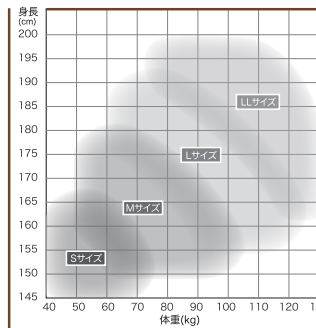
3 使用条件

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1) 墜落制止以外の目的で使用しない。
- (2) 通常作業が可能な温度範囲(目安として-10℃～+50℃)で使用する。
- (3) 使用ランヤードの表示にて使用可能質量(体重+装備品)を確認し、その質量に見合ったフルハーネス型製品(製品ネームにて使用可能質量表示)を使用する。
- (4) 右記グラフを参照し、適切なサイズを使用する。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- (1) U字つり・宙つりなど体重をかける作業には使用しない。



4 使用前点検

- (1) 毎回使用前に取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
- (2) 毎回使用前に必ず【10 点検・廃棄】の内容に従って各部の点検を行う。
- (3) ランヤードについても(2)と同様に点検を行う。
- (4) 新しい製品を使用する前には、使用開始年月ラベル(【11 交換の目安】参照)に、使用を開始した年月を必ず記入する。

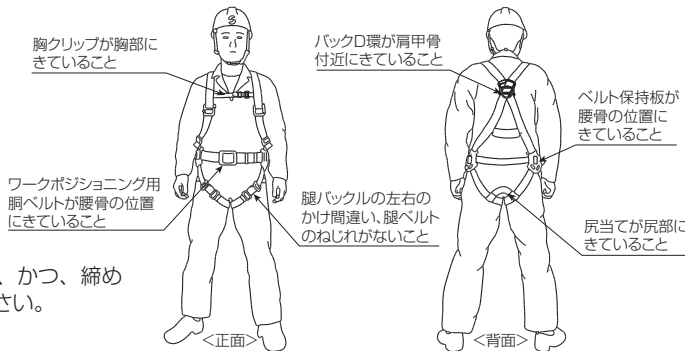
5 装着準備

- (1) 補助ベルトに取り付けます。
接続ベルトのループ部
- (2) 接続ベルトのフックを握り付けます。
[DB-HN-15DSタイプ]
・接続ベルト用フックをループ部に通します。
[DB-HN-20DSタイプ]
・接続ベルトを接続ベルト用ベルト止めに通します。
・接続ベルトの接続ベルト用ワンタッチバックルを連結します。
- (3) 反対側も同様に取り付けます。
- (4) ワークポジショニング用胴ベルトを通します。(完成)

6 装着方法

- ①一度、腿バックルを外した後、肩ベルトに腕を通すようにして装着する。
腿バックルを外しておく
- ②胸副ベルトの胸クリップを差し込む。たるみがないよう(胸が苦しくない程度)に胸副ベルトの長さを調節する。
- ③ワークポジショニング用胴ベルトを装着する。(ワークポジショニング用胴ベルトがある場合のみ)
- ④腿部に腿ベルトを通した後、再び、腿バックルを連結する。
- ⑤身体全体にたるみがでないように、肩バックルでベルトの長さを調節する。
- ⑥身体全体にたるみがでないように、腿バックルで腿ベルトの長さを調節する。
- ⑦尻当てが正しい位置にきていることを確認する。
尻当て
- ⑧腿バックルがワンタッチバックルのものは、差し込みを本体にカチッと音がするまで差し込み、装着してください。
- ⑨装着後に、胸副ベルト・バックD環・尻当ての位置を確認する。

《正しい装着例》

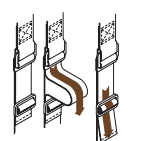


※肩・腿ベルトはたるみがなく、かつ、締めすぎないように調節してください。

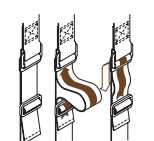
各バックル及び調節金具の挿入・操作方法

●肩バックル操作方法

《短くする場合》



《長くする場合》



●[プレートタイプ] 胸クリップ・腿バックル操作方法

《着脱方法》



《短くする場合》



《長くする場合》

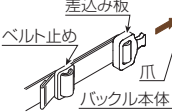


※外す際は取り付けと逆の手順外してください。

●[クリップタイプ] 胸クリップ・腿バックル操作方法

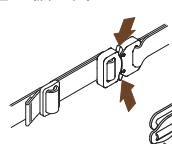
《連結方法》

“カチッ”と音がするまで差し込み板をバックル本体に差し込む。

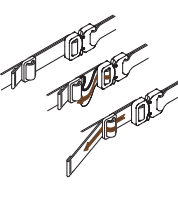


《解除方法》

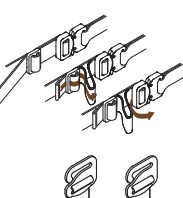
爪を上下同時に押すと差し込み板が外れる。



《短くする場合》



《長くする場合》

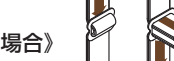


●接続ベルトの調節方法

《接続ベルトを長くする場合》



《接続ベルトを短くする場合》



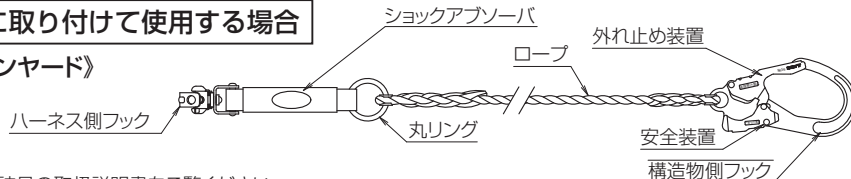
警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1) ハーネスは正しい方法で装着し、胸副ベルトを(ワークポジショニング用胴ベルトがあるものはワークポジショニング用胴ベルトのバックルを含む)確実に連結し、胸副ベルト・肩ベルト・腿ベルトの長さをたるみがなく、かつ、締め過ぎないように調節する。誤った装着・調節は、墜落阻止時に抜け落ちたり、身体が圧迫される恐れがある。
- (2) 装着時に各ベルトがねじれないように注意する。ねじれた状態で装着すると身体が圧迫されたり、墜落制止時に身体に食い込んだりする恐れがある。
- (3) 胸副ベルト・肩ベルト・腿ベルト・バックD環・尻当て・ベルト保持板・接続ベルト等が誤った位置に装着されている場合は、適正な位置になるように装着し直す。
- (4) ランヤードにショックアブソーバが付いていない状態では使用しない。

7 使用方法

バックD環に取り付けて使用する場合

《ハーネス用ランヤード》



※ご使用の際は、当該品の取扱説明書をご覧ください。

- (1) ランヤード(別売品)のハーネス側フックをハーネスのバックD環に取り付け、もう一端のフックを構造物に取り付けて使用する。
※ランヤードは「ハーネス用ランヤード」をご使用ください。

【新規ランヤード取付】

※追加ロープを除く ※手元ストラップは安全ブロック専用とする(操作方法) ① 安全装置を前に押す。

② 外れ止め装置を下に押す。

【追加ロープ取付】

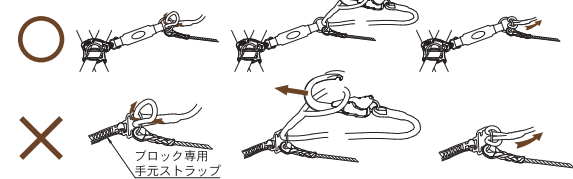
※追加ロープはカラビナを取り付けて接続しない

(HAL-R-R取付)

(操作方法) ① 安全装置を前に押す。

② 外れ止め装置を下に押す。

《アイの場合》



- (2) ランヤードをハーネスのバックD環に取り付ける際は、ハーネスの装着前に取り付ける。装着後に取り付ける場合は別のの人に確実に取り付けてもらう。
- (3) ランヤードをハーネスに取り付けた状態で、フックを使用しない時は、休止フック掛けに掛けておく。
- (4) ランヤードは脇/股に挟まないようにする。
- (5) フックを掛ける構造物は、抜けたり外れたりするおそれがなく、墜落制止時の衝撃にも十分耐えられる堅固なものを選ぶ。
- (6) フックを掛ける位置は、バックD環より上のできるだけ高い位置で、墜落制止時に床面や構造物等に激突するおそれのない箇所とする。(落下距離についてはご使用ランヤード取扱説明書をご参照ください。)
- (7) 水平親綱と併用する場合は、ランヤードのフックを親綱に掛けて、作業及び移動を行う。
- (8) 安全ブロック(リトラクタ)、セイフスライダーと併用する場合は、それらのフックをバックD環もしくは、丸リングに直接掛けて作業及び移動を行う。

- (9) フックは安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、構造物に掛けて閉じた後、外れ止め装置が確実に閉まっているか確認する。
- (10) フックは、墜落制止時にフック本体がねじれて変形したり、安全装置と外れ止め装置に荷重がかかったりしないように、右図のような正しい方法で取付け構造物に掛ける。

手元ストラップに取り付けて使用する場合

- ※手元ストラップは安全ブロック専用としてご使用ください。
- (1)安全ブロック(別売品)のフックを手元ストラップのD環に取り付けて使用する。
- (2)手元ストラップのD環を使用しない時は肩ベルトに取り付けてください。
- (3)使用時は肩ベルトから外した状態で使用してください。

■手元ストラップ〔STJ〕の取り付け方法

- (1)手元ストラップのアイの部分部分をハーネスのバックD環に通す。
- (2)バックD環に通した後、手元ストラップのアイの部分に、手元ストラップのD環を通す。
- (3)手元ストラップを引き込み、アイ部分を絞り込み、取り付け完了。

STJ仕様

※STJはオプション単品を購入後、お客様で取付が可能です。

危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

- (1)ランヤードのフックは、抜けたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりするおそれのある構造物には掛けない。
- (2)使用前点検を必ず実施し、**【10 点検・廃棄】**記載の廃棄基準に該当する箇所があるハーネス・ランヤードは使用しない。
- (3)ロープが切断するおそれがあるので、墜落制止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てて直接触れないようにする。
- (4)ハーネス装着後に、バックD環にランヤードを取り付ける時は、確実に取付けられているか確認ができないので、1人では取り付けない。
- (5)休止フック掛けにランヤードのフックを掛けて、U字つりの状態で使用しない。
- (6)ランヤードにショックアブソーバの無い状態では使用しない。
- (7)手元ストラップにランヤードを接続しない。
- (8)ランヤードを使用する場合、工具等を含む使用者の体重は、当該品の取扱説明書をご参照ください。
- (9)ハーネス、ランヤードは改造しない。
- (10)フックが手すりより滑り落ちる状況が発生する場合は、フックが破損するおそれがあるので使用しない。

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1)下図のようなフックの掛け方は、墜落制止時に構造物から外れる危険性があるので絶対にしてはならない。
- (2)ランヤードのフックは、可能な限りD環より下の位置へ取付けない様にする。(取付前には、当該ランヤード取扱説明書にて落下距離を必ず確認する。)
- (3)溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他、高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。
- (4)金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性がある場所や、ガスや粉塵の濃度が高い所で使用する場合は、導電・防爆型ハーネスを使用する。その場合、静電服・静電靴を併用する。
- (5)万一墜落した場合、振り状態になり構造物に激突する可能性のある箇所には、フックを取り付けない。
- (6)直下の床面や物体との距離が短い場合は、墜落制止時に激突しないように、十分高い位置にフックを取り付ける。(落下距離については使用ランヤード取扱説明書を参照する。)
- (7)クレーンや安全ブロック(リトラクタ)のフック等移動するものにランヤードのフックを掛けない。
- (8)ランヤードを結んだりくくりつけたりして使用しない。
- (9)水平親綱を使用する場合は、1つの支持スパン(支柱と支柱の間)につき使用者は1名のみとする。1つの支持スパンに2名以上で使用すると、墜落時に友引現象が起こるおそれがある。また、親綱の取付スパンには、使用者は2名までとする。
- (10)水平親綱を使用する場合は、支柱のところでフックを掛けかえるときに墜落しないよう注意する。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- (1)ハーネス・ランヤードを引きずらない。
- (2)ベルト・ロープをねじって使用しない。
- (3)シノー等工具類を携帯する場合、それらをワークポジショニング用胴ベルトや肩ベルト・胸副ベルト・腿ベルトと身体の上に直接差し込まない。
- (4)ハーネス、ランヤードは同一メーカー(当社製品)のものを使用する。
- (5)ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。

8 各部品の取り付け方法

※以下の部品が外れた場合は下記の手順に従って取付けてください。

■休止フック掛けの取り付け方

【HPタイプ】

- ①休止フック掛けをベルトの下側へ通す。
- ②下側へ通した後、ベルトに引っ掛ける。
- ③すべての部分にベルトを引っ掛けて完了。

【HPRタイプ(ロープ固定式)】

- ①ベルトを絞り込み休止フック掛けの爪にベルトを通します。
- ②正しく取付けできているか確認してください。爪が見えないこと。ベルトにシワがないこと。
- ①ベルトを絞り込み休止フック掛けの爪にベルトを通します。
- ②正しく取付けできているか確認してください。爪が見えないこと。ベルトにシワがないこと。

■バックサポート

- ①バックサポートを肩ベルトの下側へ通す。
- ②下側へ通した後、止め板の爪にベルトを引っ掛ける。
- ③左右の止め板の爪すべてにベルトを引っ掛けて完了。

■簡易肩パッド「DP」

- ①簡易肩パッドのボタンをすべて外し肩ベルトに巻き付ける。
- ②簡易肩パッドのボタンを留める。
- ③完了

■背中用クッションパッド「CPB」

- ①D環部に合わせます。
- ②マジック部を留めてから、ホックを留めます。
- ③完了

■腿用クッションパッド「CPL」

- ①ホックを外します。
- ②ベルトに装着し、ホックを留めます。
- ③完了

9 保守・保管

- (1)ベルト、ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
- (2)ベルト、ロープに塗料等がついた場合は、布等でふき取り、溶剤を使ってはならない。
- (3)金具類が水等にぬれた場合は、乾いた布でよくふき取った後、さび止めの油をうすく塗る。
- (4)金具類の可動部(バックル・フック)は定期的に注油する。砂・泥・モルタル等がついている場合はよく掃除して取り除く。
- (5)直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。
- (6)子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。
- (7)新品のままでも使用せずに長期間保管する場合は、必ず内装箱又は袋などに入れた状態で、かつ、上記の(5)・(6)の内容に特に気をつけて良好な状態で保管する。

10 点検・廃棄

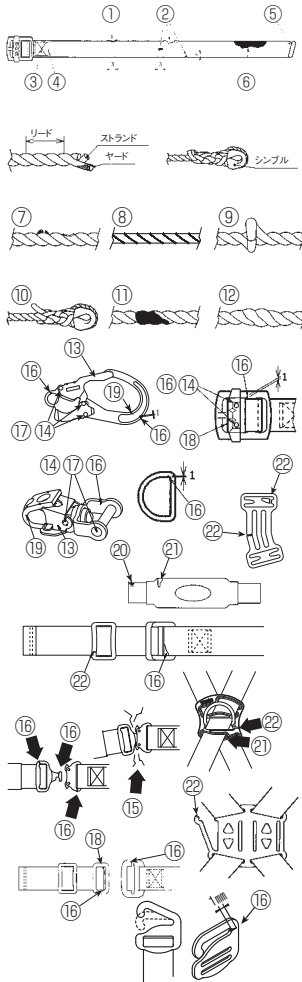
警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1)使用前に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば廃棄し、新品に取り替える。その際は必ず、使用開始年月ラベル(**【11 交換の目安】** 参照)に使用開始年月を記入する。
- (2)少なくとも1ヶ月に一度は、<点検チェックリスト>に従ってより詳細に点検を行う。
- (3)使用中に製品に異常があれば、ただちに使用を中止して再点検を行う。
- (4)一度でも大きな衝撃を受けた製品は外観に変化がなくても廃棄する。

〈製品点検チェックリスト〉ロープ式以外のランヤードをお使いの方は当該品の取扱説明書をご覧ください。

点検部分	点検項目	廃棄基準
ベルト	摩耗・擦り切れ	2mm以上あるもの ①
	切傷・焼損・溶融	2mm以上あるもの ②
	縫付け部分	ゆるみのあるもの ③
	縫い糸	切断されているもの/摩耗、擦り切れの激しいもの ④
	先端止め	変形・脱落しているもの ⑤
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの/塗料が付着したもの ⑥
	切傷・焼損・溶融	1リード内にフヤーン以上あるもの ⑦
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの ⑧
	キンク	キンク(よじれてゴブ状になること)しているもの ⑨
	シンプル	脱落しているもの ⑩
ロープ	さつま編み込み部分	抜けているもの/ゆるんでいるもの ⑩
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの/塗料が付着し硬化したもの ⑪
	変形	形崩れしているもの/著しく縮んでいるもの ⑫
<金具類> フック D環 バックル 胸クリップ 調節金具 接続ベルト用 フック	変形	変形が目視でわかるもの バックル及び調節金具の締め具合が悪いもの フックの外れ止め装置・安全装置の作動の悪いもの リベットのかしめ部にガタ:変形のあるもの ⑬
	操作	フタタッチバックルが正しく結合できないもの/爪が正常に動作しないもの 深さ1mmの傷があるもの/わずかででき裂があるもの ⑭
	摩耗・傷	リベットの方ジメ部が1/2以上摩耗しているもの バックルとベルトの接合部が摩耗し、ベルトがゆるむもの ⑮
	さび	全体にさびが発生しているもの バックル・クリップ・フックのバネが折損・脱落しているもの・動きの悪いもの ⑯
	バネ	可動部・バネ等に塗料が付着し、拭き取れないもの
	薬品・塗料等の付着	摩耗・擦り切れ 切傷・焼損・溶融 擦り切れ・切傷 焼損・溶融 ⑰
	ショック アブソーバ	3mm以上あるもの ⑱
	その他	カバーが破けて内部のベルトが露出しているもの ⑲
	その他	ベルト保持板・D環止め・ベルト止めに 割れ・き裂があるもの ⑳
	その他	割れ・き裂があるもの ㉑

(単位:mm)



11 交換の目安

- (1)使い方によっても異なるが、ハーネスは使用開始より3年、ランヤードは2年を目安に新品と取り替える。
- (2)**【10 点検・廃棄】**の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品に取り替える。
※廃棄方法については各自治体にお問い合わせください。
- (3)「使用開始ラベル」に使用を開始した年月を必ず記入する。

《使用開始年月ラベル》

使用開始年月
年 月
部品取替年月
年 月
必ずご記入願います
M Size
サンコー株式会社
06-6394-3541
made in JAPAN

12 各部の強さ

項目	墜落制止用器具の規格	試験結果
肩・腿・胴ベルト	15kN以上	20kN以上
環類・丸リング	11.5kN以上	15kN以上
肩・腿・バックル	6kN以上 振動試験により、不意の外れや25mm以上の滑りなきこと	8kN以上 問題なし
胴ベルト用バックル	8kN以上 振動試験により、不意の外れや25mm以上の滑りなきこと	9kN以上 問題なし
フルハーネス	〔順方向〕15kN以上 〔逆方向〕10kN以上	〔順方向〕15kN以上 〔逆方向〕10kN以上
動的強度 「フルハーネス単体」	〔順落下〕 トルソーを保持し、各部の破断なきこと 〔逆落下〕 トルソーを保持し、各部の破断なきこと 落下後にトルソー頭部が上方に復帰しない程にフルハーネスがずれなきこと	〔順落下〕 問題なし 〔逆落下〕 問題なし
衝撃吸収性 「フルハーネス型 組み合わせ品」 (タイプ1※1)	□重さ100kgのトルソーを試験落下距離※2にて落下 ・トルソーを保持し、各部の著しい破断なき事 ・衝撃値4kN以下 ・ショックアブソーバの伸び1.2m以下 ・落下後のトルソーの背中D環 角度45°以下 フロントD環 角度50°以下	・破断なし ・平均衝撃値4kN以下 ・ショックアブソーバの伸び1m以下 ・角度45°以下

※1:タイプ1とは、自由落下距離1.8mでの衝撃値が4kN以下のショックアブソーバ(機能を備えたランヤードをいう)

※2:試験落下距離とはランヤード長に追加落下距離(D環の高さからフック取付高さを引いた距離)を加えた距離を指す

お客様相談窓口

この製品の使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。

サンコー株式会社 本社 TEL : 06 (6394) 3541 (代表)
FAX : 06 (6395) 0041

発売元 ジェフコム株式会社 本社:東大阪市中石切町3-13-16 〒579-8014	製造元 サンコー株式会社 本社:大阪市淀川区新高1-14-7 〒532-0033
(この製品はジェフコム株式会社の委託によりサンコー株式会社が製造しました)	

フルハーネス用ランヤード(タイプ1)

取扱説明書

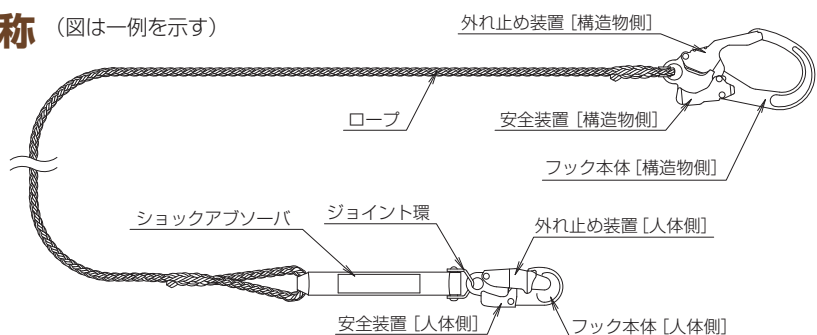
要保存 必ずお読みください。

この度は、「フルハーネス用ランヤード」をお買い上げいただきましてありがとうございます。この製品は、建設現場・工場などの高所作業で作業者の墜落を制止するためにお使いいただく製品です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に  危険、 警告、 注意の項目、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保存していただき、紛失された場合には当社もしくはサンコー株式会社にご請求ください。

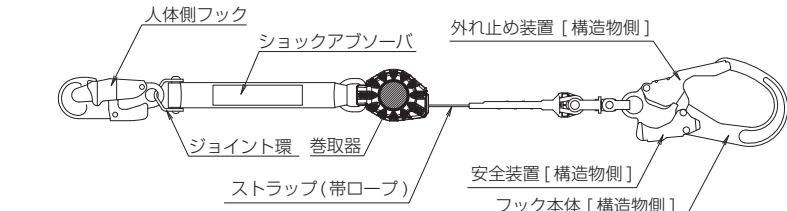
※併用するフルハーネスの取扱説明書も必ずお読みください。

1 各部の名称 (図は一例を示す)

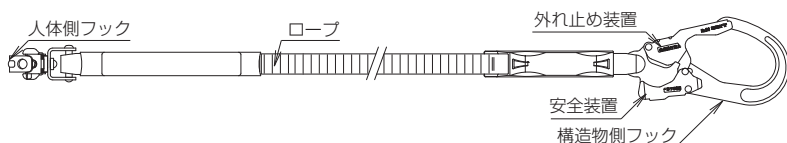
フルハーネス用
ランヤード
[ロープ式]



フルハーネス用
ランヤード
[ストラップ巻取式]



フルハーネス用
ランヤード
[伸縮ストラップ式]



※必ずショックアブソーバ(又は巻取器)の表示
(※下記イラスト参照)にて落下距離等を確認
した上で使用する

※人体側フックがカラビナタイプもございます
 ※伸縮ストラップがダブルタイプもございます
 ※人体側・構造物側フックが小型タイプもございます
 ※巻取、伸縮ストラップのダブルタイプもございます

[ショックアブソーバ表示]
(図は一例を示す)

The diagram shows a label for the DB-HL-160S with the following fields and callouts:

- 種類 (Type):** フルバーネス型 (Full Bar Type)
- 種別 (Category):** 第一種 (4kN) (Type 1 (4kN))
- 使用可能質量 (Usable Mass):** 100kg
- 製造年月 (Manufacture Year):** Indicated by an arrow pointing to the bottom right of the label.
- 最大自由落下距離 (Maximum Free Fall Distance):** 2.2m
- 落下距離 (Fall Distance):** 4.2m
- 縫製力バー内に表示 (Indicated within the Sewing Force Bar):** An arrow points to the bottom center of the label.
- 注意事項 (Notes):**
 - 必ず使用前に取扱説明書をお読みください。
 - 作業床の高さと落下距離の関係を充分にご理解の上、ご使用ください。
 - カバーを破らなくてください。なお、カバーが破れたものは新品と交換してください。

2 使用条件

 **警告** 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1) 作業者の墜落制止以外の目的で使用しない。
- (2) ショックアブソーバの表示にて使用可能質量(体重+装備品)を確認した上で、使用する。
- (3) ランヤードは、必ず1本つり状態で使用し、U字つりなどをして、体重をかけるような使い方はしない。
- (4) 通常作業が可能な温度範囲(目安として-10℃～+50℃)で使用する。

3 使用前点検

- (1) 使用前に取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
- (2) 使用前に必ず、この取扱説明書の[6 点検・廃棄]の内容に従って、各部に異常がないか点検する。
- (3) 新しい製品を使用する前に、使用開始ラベルに使用を開始した年月を必ず記入する。

4 使用方法

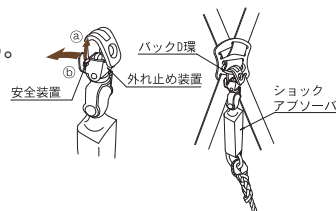
- (1) ランヤードの人体側フックをハーネスのバックD環に取り付ける。

[新規ランヤード取付]

※追加ロープを除く
※手元ストラップは安全ブロック専用とする

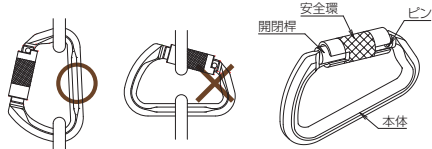
(操作方法) ④ 安全装置を前に押す。

⑥ 外れ止め装置を下に押す。

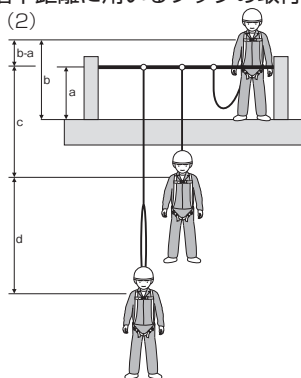


[カラビナ取付]

- ④ カラビナは、安全環を開けてから開閉棒を押さえて開き、対象物に掛けた後必ず安全環を閉める。
- ⑤ カラビナは、安全環を下側にし、かつ長軸方向に力がかかるように取り付ける。



- (2) フックの取り付け位置は、接続したD環よりも出来るだけ高い位置で、万一墜落した場合、構造物や床面に衝突しない箇所を選ぶ。なおランヤードに記載されている落下距離に用いるフックの取り付け位置高さやD環高さは右図による。落下距離とは、(c:ランヤード長さ)+(b:D環高さ)-(a:フック取付高さ)+(d1:ショックアブソーバの伸び)+(d2:落下距離・フルハーンズの伸び)
 $\ast d=d1+d2$ $\ast$ 自由落下距離=c+(b-a)
-

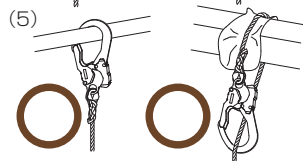


- (3) 巻取式ランヤードのストラップの引き出し・巻取りは、ストラップがねじれていたり、巻取り装置のベルト出入り口で強くこすれたりすることがないように注意する。

- (4) 構造物側のフックは、安全装置と外れ止め装置を同時に押えて開き、対象物に掛けて閉じた後、外れ止め装置が確実に閉まっているか確認する。

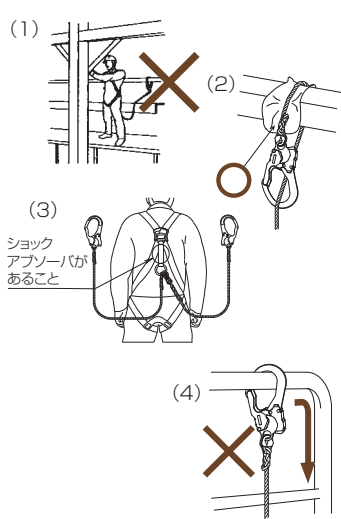


- (5) 構造物側のフックは、墜落制止時にフック本体がねじれて変形したり、外れ止め装置・安全装置に荷重がかかったりしないように、正しい方法で取付対象物に掛ける。



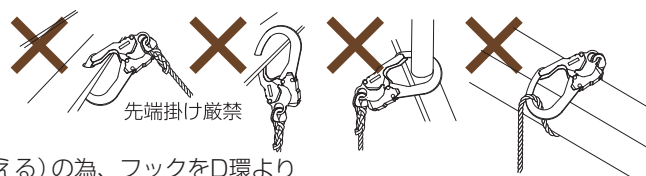
⚠ 危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

- (1) フックは、抜けたり、外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりする可能性のある構造物に取り付けてはならない。
- (2) ロープが切断されるおそれがあるので、墜落制止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当て直接触れないようにする。
- (3) ランヤードはショックアブソーバがない状態では使用しない。追加ロープは必ずショックアブソーバと接続して使用する。
- (4) 斜めの構造物や逆L字のように墜落時にフックがずれる箇所には掛けないでください。
- (5) ロープを結んだり、くくりつけたりして使用しない。
- (6) 水平親綱を使用する場合は、1スパン(支柱と支柱の間)を利用する作業者は1名とする。2名以上で使用すると、墜落時に友引現象が起こる恐れがある。また、1本の親綱についても使用者は2名までとする。



 **警告** 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1)下図のようなフックの掛け方は、墜落制止時に構造物から外れる危険性があるので、絶対にしてはならない。



- (2) 安全性確保（落下距離を抑える）の為、フックをD環より上の可能な限り高い位置に取り付ける。取付位置が低いと落下距離が伸び墜落制止時の衝撃も大きくなる。
- (3) 溶接の火花やスパッタ、ノコの他、はんだごて等、高温高熱の物体に触れないようにする。
- (4) 強い酸やアルカリ、油等の化学薬品が製品にかからないようにする。
- (5) 金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性があるため、ガスや粉塵の濃度が高い場所では使用しない。
- (6) 万一の墜落時に振子状態になり構造物に激突する可能性のある箇所には、フックを取り付けない。
- (7) 直下の床面や物体との距離が短い場合は、墜落制止時に激突しないように十分高い位置にフックを掛けること。
- (8) 製品毎に落下距離が異なるので、表示をよく確認してから使用する。
- (9) 巻取式ランヤードの落下距離は、最大落下距離[ランヤードが全長引き出された状態での落下]に注意する。
- (10) 巻取式ランヤードは、墜落時にストラップの繰り出しをロックする機能があるので、フックを掛けた状態では、飛び降りる・走る等の急な動きはしない。
- (11) クレーンや安全ブロック(リトラクタ)のフック等の移動するものにランヤードのフックを掛けない。
- (12) ショックアブソーバのカバーは剥がさずに使用する。特に透明カバーは、内部ベルトの保護及び、形状を保つ為のものなので、絶対に剥がさない。
- (13) 人体側フックを回し掛け等により構造物に取り付けたり、構造物側フックを墜落制止用器具に取り付けない。右のイラストの様な使い方は、落下距離が大幅に長くなり、ショックアブソーバも全く機能しないことから墜落制止時には衝撃荷重が大きくなり、負傷につながる。
- (14) ランヤードをフルハーネスに取り付けた状態で、フックを使用しない時は、必ず休止フック掛けに掛けておき、それ以外の箇所に掛けない。
- (15) 墜落制止時にランヤードが身体に絡まないよう注意する。
- (16) ランヤード各々にショックアブソーバ(合計2個)が付いたダブルランヤード使用時において、両方のフックを掛けた状態で作業しない。
- ※規格値よりも高い墜落制止荷重発生のおそれがある為。水平移動などにフック2個を掛けて使用する場合は、ショックアブソーバが1個付いたダブルランヤードを使用すること。

⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- (1) ロープを引きずらない。
- (2) ロープをねじって使用しない。
- (3) 併用する部品は同一メーカー（当社製品）のものを使用する。
- (4) ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。

5 保守点検

- (1) ランヤードの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しをする。
- (2) ランヤードに塗料などが付着した場合は、布等でふきとる。溶剤などを使ってはならない。
- (3) 金具類が水などにぬれた場合は、乾いた布で良くふきとった後、さび止めの油をうすく塗る。
- (4) 金具類の可動部（バックル・フック）は定期的に注油する。ただし、巻取器のベルト出入口等から注油してはならない。誤って注油した場合は使用せず、廃棄して新しい製品と取り換える。砂や泥が付いている場合はよく掃除して取り除く。
- (5) ランヤードは、直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しが良く清潔な場所に保管する。
- (6) 子供が遊びに使ったり、動物が製品に影響を与えたりしないように注意する。
- (7) 新品のランヤードでも、使用せずに長期間保存する場合は、必ず内装箱または袋等に入れた状態で、かつ上記の(5)、(6)の内容に特に気を付けて、良好な状態で保管する。

6 点検・廃棄

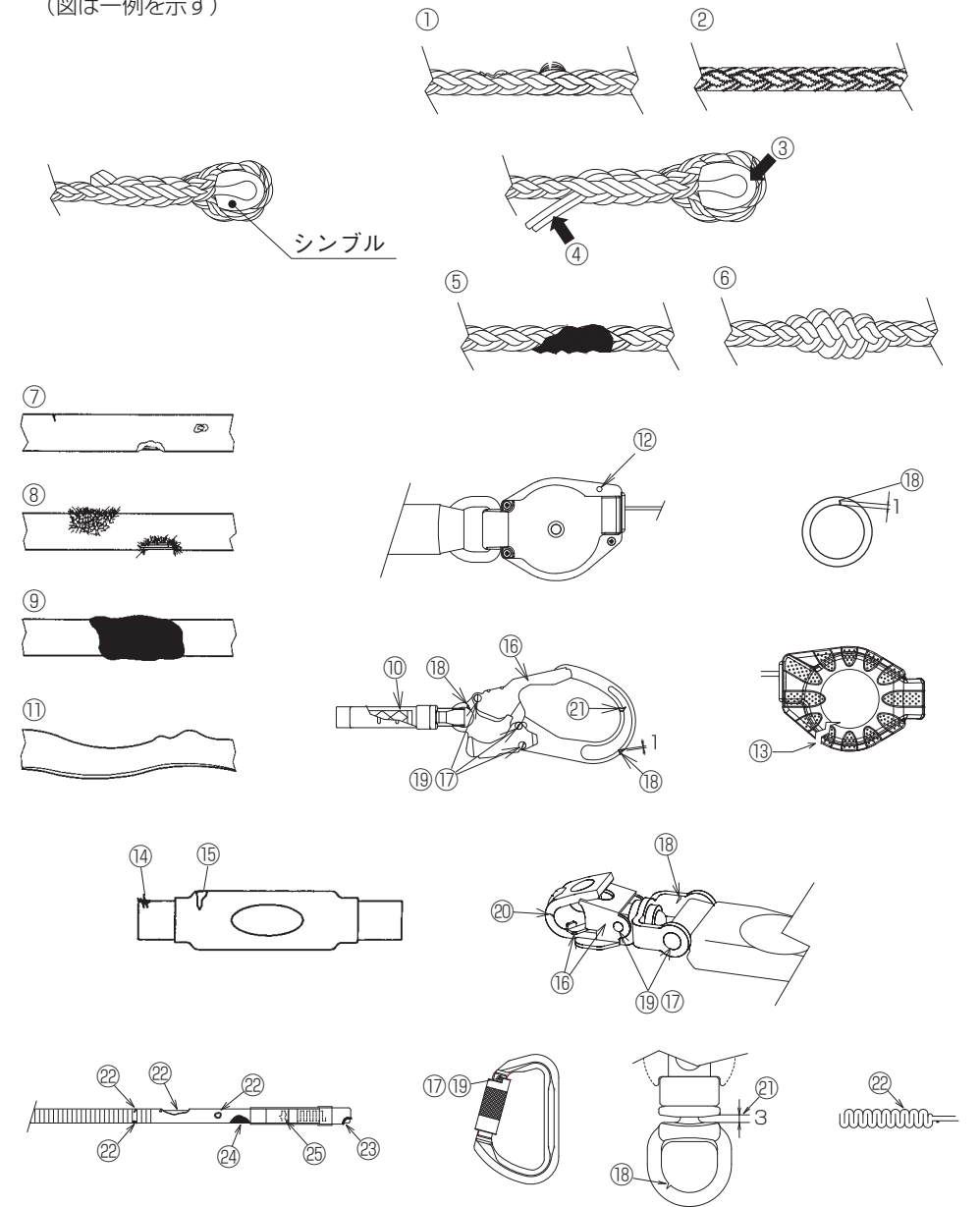
警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1) ランヤードは使用前に必ず点検し、点検チェックリストの廃棄基準に該当する部分があれば、廃棄して新しいものと取り替える。
- (2) 少なくとも1 ヶ月に一度は、点検チェックリストに従ってより詳細に点検を行う。
- (3) 使用中にランヤードに異常があれば、ただちに使用を中止して再点検を行う。
- (4) 一度でも大きな衝撃を受けたものは、外観に変化がなくても廃棄する。
- (5) 製品の分解・改造・修理を行ってはならない。
- (6) ストラップ（帯ロープ）の芯糸が露出しているものは必ず廃棄する。

〈点検チェックリスト〉

点検部分	点検項目	廃 棄 基 準
八つ打ちロープ	切傷・焼損・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの ①
	摩 耗	摩耗して棒状になっているもの ②
	ロープ用シンプル	脱落しているもの ③
	さつま編み込み部	抜けているもの／ゆるんでいるもの ④
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの／塗料が付着し硬化したもの ⑤
	変 形	形崩れしているもの／著しく縮んでいるもの ⑥
ストラップ（帯ロープ）	切傷・焼損・溶融	1mm以上あるもの／芯糸が露出しているもの ⑦
	摩耗・擦り切れ	1mm以上あるもの／芯糸が露出しているもの ⑧
	帯ロープ用シンプル	破損／脱落しているもの ⑨
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの／塗料が付着し硬化したもの ④
	縫 糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの ⑩
	変 形	形崩れしているもの ⑪
巻取器	縫製部保護カバー	爪折れ 爪部が破損し、固定できないもの
		破れ 破れて縫糸が見えているもの
	変 形	ストラップの巻き込み・引き出しのできないもの
	取付ネジ	取付ネジが脱落しているもの ⑫
	泥やセメント/埃の付着	動きが悪くなっているもの
	ロック	ロック機構が作動しないもの
ショックアブソーバ	摩耗・擦り切れ・切傷・焼損・溶融	1mm以上あるもの ⑭
	擦り切れ・切傷・焼損・溶融	カバーが破れて内部のベルトが露出しているもの ⑮
フックカラビナ環 類	変 形	変形が目視でわかるもの ⑯
		フックの外れ止め装置及び安全装置の開閉動作の悪いもの ⑰
		フックのリベットのカシメ部にガタ・変形があるもの ⑱
	摩滅・傷	深さ1mm以上の傷があるもの／少しでもき裂があるもの ⑲
		リベットのカシメ部にガタ、変形があるもの ⑳
		フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの ㉑
	回転部分	3mm以上のすきまがあるもの
	さ び	全体にさびが発生しているもの
伸縮ストラップ	バ ネ	フックのバネが折損・脱落しているもの／動きの悪いもの
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料が付着し、拭き取れないもの
	切傷・焼損・溶融・摩耗・擦り切れ	1mm以上あるもの/芯が露出しているもの／全体的に摩耗し毛羽立ちがあるもの ㉒
	収縮チューブ／縫製部保護カバー	破れて縫い糸が見えているもの ㉒
	耐摩耗用筒ベルト	破れているもの ㉓
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの／塗料が付着し硬化したもの ㉔
	伸縮ストラップ	破れて内部の伸縮ゴムが見えているもの
	泥やセメントの付着	泥やセメントが付着し汚れて硬化しているもの
	縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの ㉕

(図は一例を示す)



7 交換の目安

- (1) 使い方によっても異なるが、交換の目安としては2年くらいをめどとする。
- (2) [[6 点検・廃棄] の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品と取り替える。
- ※廃棄方法については、各自治体にお問い合わせください。

8 各部の強さ

項目	墜落制止用器具の規格	試験結果
環類・丸リング	11.5kN以上	15.0kN以上
ショックアブソーバ強度	1.5kNにて2分間機能せず 15.0kN以上	1.5kNにて2分間機能せず 15.0kN以上
ショックアブソーバ衝撃性能タイプ1※1	□試験落下距離にて落下(1.8m～4m落下) ・墜落制止荷重は4kN以下 ・ショックアブソーバの伸びは、1.2m以下	平均4.0kN以下 ショックアブソーバの伸び1.2m以下
緩衝環付、ロック装置付き巻き取りランヤード	ロック静的強度 6kN以上 ロック動的強度 ロックが機能すること	6.5kN以上
	□1/2引き出しにて落下 ・4kN以下	4kN以下
ロック装置付き巻き取りランヤードタイプ1※1	ロック静的強度 6kN以上 ロック動的強度 ロックが機能すること 全引き出し強度 11.5kN以上	7kN以上 ロックは正常機能 11.5kN以上
巻取力停止/ロック装置付き巻取ランヤードタイプ1※1	全引き出し強度 11.5kN以上	11.5kN以上
ロープ、ストラップ(ランヤード)タイプ1※1	15.0kN以上	15.0kN以上
フックタイプ1※1	全長方向強度 11.5kN以上 [外れ止め縦荷重1.0kN]φ3mmが通らないこと	11.5kN以上 φ3mm通過せず
衝撃吸収性【フルハーネス型組み合わせ品】(タイプ1※1)	□重さ100kgまたは130kgのトルソーを試験落下距離※2にて落下 ・トルソーを保持し、各部の著しい破断なき事 ・衝撃値4.0kN以下 ・ショックアブソーバの伸び 1.2m以下 ・落下後のトルソーの角度 [背中側D環の場合]：45° 以下 [フロントD環の場合]：50° 以下	・破断なし ・平均衝撃値4.0kN以下 ・ショックアブソーバの伸び 1.2m以下 ・落下後のトルソーの角度 [背中側D環の場合]：45° 以下 [フロントD環の場合]：50° 以下

※1：タイプ1とは、自由落下距離1.8mでの衝撃値が4.0kN以下のショックアブソーバ機能を備えたランヤードをいう
※2：試験落下距離とはランヤード長に追加落下距離（D環の高さからフック取付高さを引いた距離）を加えた距離を指す

お客様相談窓口

この製品の使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。

サンコー株式会社 本社 TEL：06(6394)3541(代表)
FAX：06(6395)0041

発売元

ジェフコム株式会社

本社:東大阪市中石切町3-13-16 〒579-8014

(この製品はジェフコム株式会社の委託によりサンコー株式会社が製造しました)

製造元



サンコー株式会社

本社:大阪市淀川区新高1-14-7 〒532-0033